



収穫間近

6月7日 川倉
秋元慶蔵さん
トマトの実すぐり作業

藍綬褒章

伊藤 清慈氏(六十四歳)

伊藤清慈氏は、昭和三十九年に町議会議員に初当選して以来、連続九期三十五年間、町政を支えてきました。この間に、町議会議長、議会運営委員長、総務民生常任委員会委員長、土木常任委員会副委員長を歴任し、地方自治の振興に大きく貢献。また、地域住民の生活の向上や農林業をはじめとする各産業の振興など、地域社会の発展に尽くした長年の功績が評価され、この度の受章となりました。

これを受け伊藤氏は「今回の受章には、しみじみ重みを感じている。町民の皆さんに大変感謝しています」と喜びを語っていました。



勲五等瑞宝章

加藤 卓爾氏(七十四歳)

加藤卓爾氏は、四十七年余りの長きにわたり消防活動に努め、地域住民の生命、財産を守り、町消防団長としても活躍されました。また、町議会議員、町農業委員などを歴任し、地域社会の福祉の向上や農業の振興など地域の発展に貢献した功績が認められ叙勲受章となりました。

加藤氏は「とても名誉なこと。消防活動をしてきた当時は、色々なことがあり大変だったが、ここまでこれたのは皆さんのおかげです」と話していました。



消防庁長官永年勤続功労章

今 勝 廣氏(六十歳)

このほど、今勝廣氏は、青森市ホテル青森での平成十年度青森県消防功労表彰式で、三十一年の長きにわたり消防発展に精励したことにより消防庁長官永年勤続功労章を受けました。

消防力の強化と団員の指導育成に尽力したことが認められての受賞に今氏は「思ってもいない受賞で、大変うれしい。長く続けてこれたのは、消防団の皆さんのおかげです」と話していました。

今氏は、四月十九日で定年退職され、現役は退いたものの「今後も微力ながら町のために協力していきたい」と、抱負を語っていました。



平成12年4月1日

介護保険制度スタート

わが国は、急速な高齢化と少子化社会のなかで、「介護」は家族だけでは支えきれない現状にあります。介護保険制度は「介護の問題」や「老後の不安」を解消するために「介護」を社会全体で支える体制をつくるということから四十歳以上のみなさんに介護保険料を納めていただき、そのお金で寝たきりや痴呆の高齢者に介護サービスを提供することを目的としています。

介護サービスを

利用できるのは…

◇六十五歳以上の人

(第一号被保険者)

介護や支援が必要と認められた場合にサービスが受けられます。

◇四十歳以上六十四歳以下の

医療保険加入者

(第二号被保険者)

老化が原因とされる病気「特定疾患」により、介護や支援が必要と認められた場合サービスが受けられます。

介護サービスの利用料は…

利用者は介護サービス費用の一割負担となります。施設等を利用する場合は食事代の負担もあります。

介護保険料の決め方

◇六十五歳以上の入

(第一号被保険者)

所得に応じて、定額が定められます。

◇四十歳以上六十四歳以下の

医療保険加入者

(第二号被保険者)

加入している医療保険の計算方法のもとに定められます。

介護保険料の納め方

◇六十五歳以上の入

(第一号被保険者)

老齢年金から自動的に天引きとなります。ただし、年金額が月一万五千円未満の人や無年金者などの人は個別に納めます。

◇四十歳以上六十四歳以下の

医療保険加入者

(第二号被保険者)

加入している医療保険の保険料(税)と一緒に納めます。

介護保険料を

納めないでいると…

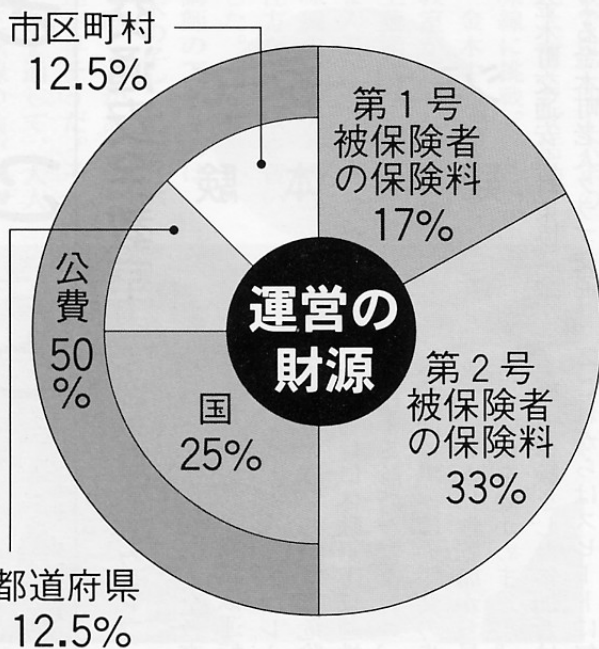
みなさんの保険料が財源の半分を占めるとも大切なものです。納めない人がいると財政がとてもしびしくなり、健全な運営に支障をきたすこととなります。

なお、介護保険で受けたサービスが、いったん全額負担になることがあります。また、介護保険のサービスが受けられなくなることもあります。

介護保険料の納付が

困難な場合は…

災害等の特別な事情で納付が困難な時には、保険料が減免される場合があります。



朝野球開幕



▲選手宣誓をするリラックス岩村主将

今シーズンの 健闘誓う

金木町朝野球協会（理事長Ⅱ藤元昭逸）主催の平成十一年度朝野球選手権大会が五月十七日早朝、町運動公園野球場で開催されました。

開会式は、全十二チーム、二百三十八人の選手が参加して行われ、前年度A級優勝のリラックス、B級優勝の上町クラブからそれぞれ優勝旗が返還されました。
角田助役が「事故やけがの

ないように、最後まで頑張ってください」とあいさつし、顧問の成田教育長が選手を激励しました。選手を代表してリラックスの岩村弘男主将が「正々堂々とプレーします」と力強く宣誓しました。

この後、抽選により藤枝太陽クラブ対のんべえずの試合が行われ、今シーズンの幕が開きました。

大会は、A級七チーム、B級五チームに分かれてのリーグ戦で、七月末まで熱戦が繰り広げられます。

蚊張の荒馬衣装寄贈



▲製作者の桑田さんから高橋校長へ衣装を手渡し

金木南中学校

喜良市老人クラブ（会長Ⅱ木田忠雄）がこのほど、金木南中学校（校長Ⅱ高橋章）に手作りの荒馬の衣装とぞうきん百枚を寄贈しました。

孫たちがいつもお世話になっている金木南中学校のためにわずかでも協力したい、と老人クラブの有志が蚊帳を持ち寄り作った荒馬衣装は、見事なごきん刺しの半てんと手

甲、脚半の一式三点。作業は、布を裁って縫い上げるまで約一カ月間。製作者の桑田ミサオさんは「根気のいる仕事でしたが、自分なりに工夫して作りました。子どもたちの役に立てればうれいのです」と話していました。

金木南中では、早速、工芸品の展示スペースに飾って生徒たちに見てもらい、九月四日の南中祭パレードには、この衣装で荒馬踊りを披露する予定です。

交通安全教室

金木町老人クラブ

シミュレーターで 疑似体験

金木町交通安全対策協議会による金木町老人クラブ交通安全教室が五月十八日、中央老人福祉センターで行われました。

「これからはスピードに気を付けなくては」と話し、事故の恐ろしさを再確認して、今後の交通安全を誓っていました。

はじめに、角田助役があいさつし、山口警察署長と葛西安全協議会長が交通安全の注意事項や交通事故の現状について述べました。

この後、運転免許証所有者は、県警察本部交通企画課の指導により、昨年十一月に県警が導入（東北初）

したばかりの交通安全教育車「ふれあい号」で疑似運転体験をしました。シミュレーターを使い、いろいろな危険場面等の疑似体験や運転適性検査による診断などを行い、また夜間で黒っぽい服装の歩行者が、いかに運転席から見えにくいかを確かめました。



▲シミュレーターで日ごろのハンドル操作をチェックします

◀すき間をあけないように
気をつけて植えました



五月二十一日、五所川原地内にある五アールの水田に、嘉瀬小学校（校長 横濱盛昭）の五年生二十八人と五所川原市立毘沙門小学校（校長 竹浪桂子）の五年生十二人が合同で、もち米「ユキモチ」の苗を植えました。

津軽北部農業協同組合嘉瀬支店が、管轄地区にある両校の児童に田植え体験と収穫の喜びを味わってもらいたい、と毎年行っているものです。農協青年部（部長 工藤美智夫）から植え方の指導を受

けた後、半そで、短パン姿になった児童たちは、恐る恐る裸足で田んぼに。ほとんどの児童が初めてとあって、最初は「つめたーい」「気持ちわるーい」と声を上げ、泥から足が抜けなくなるなど悪戦苦闘していました。泥の感触に慣れてくると手植え作業を楽しんでいました。

最後に、植えた苗が丈夫に育つように、みんなで祈願し、秋の収穫に期待を寄せていました。

かおもおしりも泥だらけ 田植え体験

嘉瀬小学校 喜良市小学校

青空の下、五月二十六日、喜良市小学校（校長 長谷川俊介）の五年生十三人が、体育館裏にある学校田二十アールに田植えをしました。

五年生の社会科の授業で稲作についての学習があるため、実際に田植えや稲刈りの体験を通して農作業について理解を深めてほしいと、同小学校が行っているものです。

はじめに、PTA会長の桑田哲明さんから「植える本数を変える等自分なりに工夫す

▶アドバイスを受けながら
まっすぐ丁寧に



ると、今後の記録に役立ちますよ」とアドバイスを受けた後、児童たちは、裸足で田んぼに入り丁寧にむつまじい苗を植えました。父兄の協力を受け、ねじり鉢巻きをして気合い十分の児童たちは、「たのしいー」と夢中で作業していました。児童たちは、収穫まで生育や管理などを記録し、秋の収穫祭には、老人クラブや一人暮らしの人たちを招待してもちつきを予定しています。

教室に響く

津軽三味線の音

金木中学校・喜良市小学校

金木中学校（校長 長谷川正夫）と喜良市小学校（校長 長谷川俊介）が、本年度から津軽三味線奏者の育成を目的として、授業に津軽三味線を取り入れ、五月二十七日には両校でそれぞれ教室が開かれました。

金木中学校では、三年生九人が選択授業で、喜良市小学校では、四、六年の十三人がクラブ活動で三味線に挑戦。この日、金木中では初めての教室が行われ、講師の工藤満次さんと弟子のまんじ愛華さんから、三味線の扱い方や調弦の仕方など基本を習いました。

講師の工藤さんは、「金木の子どもたちは、音を聴く力があるので、上達が早そうだ。子どもたちを通して、大人にも三味線の輪が広が



▲真剣な表情で、指導を受ける金木中の生徒たち

っていけば」と話していただきました。生徒たちは「前から津軽三味線をやってみたいと思っていたので、習うことができてうれしい。最初に音が出たときは感動した」と興奮気味に話し、今後の授業では、曲目『あどはだり』の習得を目指してがんばります。

とびだせ
スポーツあおもり

第16回

町民健康 マラソン大会

— 193人が健脚を競う —



▲ゴールを目指し、一斉にスタート (小学校高学年男子)

五月二十二日、第十六回町民健康マラソン大会が金木町運動公園で行われ、町内に居住、勤務する一九三人が参加し、心地よい汗を流しました。開会式では、成田教育長が「いつまでも思い出に残る大会にできるように、最後まで頑張ってください」と激励した後、選手を代表して嘉瀬小学校六年の伊藤悠くんが選手宣誓し

ました。大会は、小学校低学年は運動公園内を一周するコース、小学校高学年からは運動公園を発着点として公道へ飛び出し、折り返してくるコースで競われ、成田教育長の号砲でスタート。青森県民駅伝競走大会と田舎館少年駅伝津軽大会の選手選考会を兼ねているため、新記録を狙って走る人



▲はあー疲れた。でもがんばって走ったよ

- また、楽しくマイペースで走る人など様々。完走を目指して力走する選手らに、駆け付けた家族から熱の入った声援が送られていました。
- 上位入賞者は次のとおり。
- ◎小学校低学年男子 1 km
 - 一位 中村 亮介(嘉瀬)
 - 二位 梶浦 陽平(川倉)
 - 三位 平川 卓弥(嘉瀬)
 - ◎小学校低学年女子 1 km
 - 一位 今 あつみ(嘉瀬)
 - 二位 今 真梨奈(嘉瀬)
 - 三位 今 あゆみ(嘉瀬)
 - ◎小学校高学年男子 1.5 km
 - 一位 中谷 泰成(川倉)
 - 二位 齋藤 彬宏(喜良市)
 - 三位 工藤 剛志(川倉)
 - ◎小学校高学年女子 1.5 km
 - 一位 今 綾乃(喜良市)
 - ◎中学校男子 3.5 km
 - 一位 沢田 年昭(金木中)
 - 二位 奈良 享平(金木南)
 - 三位 米谷 一志(金木南)
 - ◎中学校女子 3 km
 - 一位 飯塚 緑(金木南)
 - 二位 中谷 香織(金木中)
 - 三位 田中 麻耶(金木南)
 - ◎一般男子 5 km
 - 一位 棟方 美暢(嘉瀬)
 - 二位 田中三猛(川倉)
 - ◎一般女子 2 km
 - 一位 中谷すみ子(川倉)
 - 二位 田中美由紀(金木)
 - 三位 菅原 良子(金木)
 - ◎一般男子四十歳以上 3.5 km
 - 一位 工藤 勇蔵(金木)
 - ◎一般男子 舞(嘉瀬)
 - ◎一般男子 其田和可菜(川倉)
 - ◎一般男子 三・五 km
 - ◎一般男子 原田 舞(嘉瀬)
 - ◎一般男子 沢田 年昭(金木中)
 - ◎一般男子 奈良 享平(金木南)
 - ◎一般男子 米谷 一志(金木南)
 - ◎一般男子 飯塚 緑(金木南)
 - ◎一般男子 中谷 香織(金木中)
 - ◎一般男子 田中 麻耶(金木南)
 - ◎一般男子 棟方 美暢(嘉瀬)
 - ◎一般男子 田中三猛(川倉)
 - ◎一般男子 二 km
 - ◎一般男子 中谷すみ子(川倉)
 - ◎一般男子 田中美由紀(金木)
 - ◎一般男子 菅原 良子(金木)
 - ◎一般男子 三・五 km

鈴木健二氏

県文化アドバイザー
県立図書館・県近代文学館 館長

朗読と講演 市町村訪問調査で金木町に

県文化アドバイザー・県立図書館長を務める鈴木健二氏による県内市町村訪問調査が、六月三日に金木町で開催されました。

全市町村を訪問するものです。金木町の訪問調査では、はじめに鈴木氏と鳴海町長が懇談。町の概要を説明した後、町内の文化関係者ら十人との懇談が役場庁舎内で行われました。

この調査は、鈴木氏が青森県内の文化状況を自分の眼で直接確認したいと、芸能・芸術だけでなく、福祉や環境、スポーツなど心にかかわる事はすべて文化であるという基本的な考えに基づいて、幅広い調査を行うため企画され、四月二十五日に佐井村からスタートし、十二月まで県内の



▲太宰の小説「津軽」を朗読する鈴木氏

午後からは、芦野公園や二本ヤス、完成したばかりのデザイナーズセンターなど、町内の施設関係を視察。夕方から、金木町太宰治記念館「斜陽館」二階座敷で朗読と講演が行われ、集まった百三十余人の聴衆が鈴木氏の語り口に耳を傾けていました。

旧制弘前高等学校の先輩に当たる太宰治のエピソードを交え、鈴木氏は「私が旧制弘前高等学校時代に金木町を訪れた時、太宰さんの大きな家があるのを思い出してこの生家に来たことがあった。その時が私と太宰さんとの初対面です。太宰さんとは深い付き合いはなかったが、とても印象に残る人。太宰さんの感性



▲鈴木氏の語りに聞き入る聴衆

は彼でなければいけないものだと思うし、日本の最後の小説家であるような気がする。あれほど小説にのめり込み、あれほど見事な文章を書き、そして、へ死のうと思っていた。」という書き始めができる小説家はこれからは出てこないと思う。そして、その太宰さんの小説「津軽」を五十数年さかのぼって、くしくも、初対面の場所の階段横で読ませていただくことになるのでは。」と話し、太宰治の生家での朗読に「人生の思わぬ巡り合せ」と語っていました。

♥かなぎ公民館ブライダル情報♥

HAPPY Wedding

このたび、めでたく「かなぎ公民館ブライダル」(企画・進行=事務局「金木町中央公民館」)によりカップルとなられた方々をご紹介します。



1999. 5. 1
新郎 福士 卓義さん(金木)
新婦 蜂谷 祐子さん(埼玉県)



1999. 5. 2
新郎 澤田 孝誠さん(嘉瀬)
新婦 台丸谷 優子さん(稲垣村)



1999. 5. 4
新郎 泉谷 佳輝さん(川倉)
新婦 佐野 智津さん(静岡県)

★ご結婚をご予定されている方は、お気軽に金木町中央公民館にご相談ください。すべて事務局が手配いたします。(☎53-3581) また、お二人のお名前と結婚記念日を刺しゅうした豪華桐箱入アルバムの記念品等々たくさんの特典があります。

太宰をしのぶ ⑭ 太宰治と生家 (5)

金木町太宰会々長
木下 巽

曾祖父惣助は、明治維新のあ
わただしい世相の中でも、わき
目をふらずに行商と金貸しを続
け財を蓄えていきます。今回は
「太宰研究誌」を参照し、津島
家の大地主への道とその背景を
探ってみます。

帰農政策

明治二年、領地を天皇に返還
した大名は、新政府の下で華族
となり、新設の藩知事に任命さ
れます。「津軽家文書」により
ますと、明治三年に弘前藩知事
「津軽承昭」が、藩で失職した
士族の救済策として「帰農政策」
をとります。これは、十町歩以
上の農地所有者に対し、十町歩
を残して、他のすべてを献田もし
くは一反歩あたり金三両で買い
あげ、献上させるということで
す。その田畑を士族に分け与え
るといふ計画です。

明治三年十月十日新田地方の
中心、木造に藩知事が自ら出か
け、豪農・地主を集めて宣言し
たということです。以後、地主
を集めて説諭し、土地取り上げ
政策を強引に進めます。やむな

く売却・献上した者三百八十九
人、取り上げ収用面積は水田二
千八百七十四町歩、畑地五十町
歩余に達したということです。

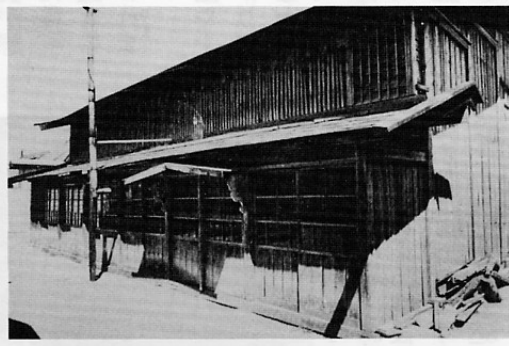
十町歩から

このとき「金木村惣助」は
「五等下之部三町歩余御
買上」の項に名を連ねて
います。この時点で十三
町歩余の田を持ち、藩内
では百二十三位に入る小
地主になっていたことを
示しています。これまで
の豪農・地主の手元には
一律十町歩だけ残り、他
は取り上げられたことにな
ります。

この際、藩庁は地主た
ちの不満をおさえるため
の交換条件として、「家
業願済」によって、転業・副業
を許可します。曾祖父惣助は、
このとき、従来の商売に加えて
「灯油・反物販売・金貸業」を申
請し許可されたということです。

大地主への道

明治四年五月・六月に藩庁は、



▲太宰の生家（旧津島家）が出来上がる前に
住んでいた住居。金貸し業を行って
「対馬商行」と呼ばれていた。

抽選を行って士族に分与地を決
めます。ところが希望地に恵ま
れなかった者や農耕に堪えられ
なかつたり、いなか暮らしをき
らつたり、生活に困った者が出
てきます。同年七月「廢藩置県」
断行と同時に、藩知事の東京在

住の命令、藩職罷免、家禄支給
停止という事態となり、士族た
ちの帰農意欲もにわかに消極的
なものとなります。実際に移住
した者は五割に満たなかつたよ
うです。同年十一月に、士族に
職業の自由が許されると、一族
をあげて移住し鉾をとろうとし

た者も、田畑を売り渡して弘前
に帰るといふことになりました。
こうして土地取り上げ、士族帰
農政策は失敗したのです。その
田畑を買えるのはかつての豪農
たちではなく、小金をためてい
る商人、新興地主に買い占めら
れていきます。

曾祖父惣助もまた、帰農に失
敗した没落士族の土地を買い占
めていきます。このとき多額の
借金までして買い集めた田地が、
その後の津島家の基本財となっ
ていきます。

また、打ち続く凶作で手を上
げた零細な自作農に、金を貸し、
その利息と担保流れによって土
地を買収し膨張していきます。
さらに明治六年、地租が改正さ
れます。地租は金納で一定です
が、小作料は現物納です。もう
かつたのは商人地主です。この
ようにして、明治三年のころは
十三町歩の小地主だった曾祖父
惣助は、またたく間に百町歩・
百五十町歩と、大地主への道を
駆けのぼっていきます。

県内第十二位へ

太宰さんは『苦惱の年鑑』に、
（その頃、れい）の多額納税の貴
族院議員有資格者は、一縣に四
五人くらゐのものであつたらし

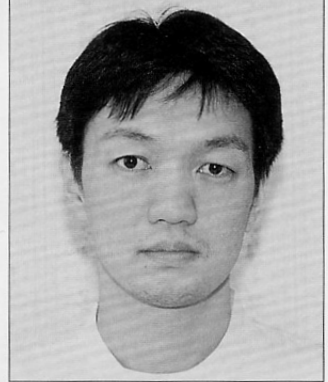
い。曾祖父は、そのひとりであ
った。と記述しているように、
明治三十年、「貴族院多額納税
者議員互選名簿」に津島惣助の
名前が初めて登場し、納税額八
百二十六円二十三銭六厘、県内
長者番付の第十二位に進出しま
す。わずかに二十数年の間に青森
県全体で十二位まで進出したの
は驚くべき手腕です。曾祖父惣
助六十二歳の時でした。

県内第四位に

惣助は、明治十年代には、油
売りと荒物の行商をやめ、木綿
屋に商売がえします。明治二十
年ころに建てた旧宅は木綿屋の
造りになっていたということだ
ですが、本業は金貸し業で「対馬
商行」と呼ばれていました。「対
馬商行」は、明治三十年七月に、
資本金一百万円の「合資会社金木
銀行」を設立し蓄財に拍車をか
けることになりました。そして、
木造の松木家から迎えた婿養子
永三郎こと、太宰さんの父源右
衛門を頭取に据え、明治三十七
年には県内多額納税者番付では
一躍第四位（一千四百三十円）
までに進出します。所有田畑二
百町歩（一説には二百五十町歩）
の大地主にのしあがります。

変形性膝関節症について

整形外科 若井裕司



整形外科の外来には、「最近、膝が痛くなった」といい受診される患者さんが大勢います。

その多くは、変形性膝関節症であり、今回は、この事についてのお話をしたいと思います。

1. 関節の構造

関節とは、骨と骨が連結している肩、肘、股関節、膝などの部位であり、可動性を持っています。関節部では、骨の表面は関節軟骨で覆われており、この軟骨が関節の働きに重要な役割を果たしています。

2. 変形性関節症

関節軟骨は非常に繊細でできていて、加齢とともにその弾力性が低下し摩耗してきます。そのために軟骨の特性が失われ、関節にいろいろな症状がでてくるのです。症状としては、軟骨が摩耗しその下

にある骨が露出してくるために生じる痛み、関節の変形や運動制限、関節液の貯留などがあります。

膝関節は、いろいろな関節の中で、最も変形性関節症を起こしやすい関節で、歩行や階段の昇り降りなどにより痛みがでてきます。また、膝の曲がりが悪くなり正座ができにくくなったり、膝に水がたまったりします。

3. 治療法

治療は、手術をしない保存的治療が基本となります。

a. 筋力訓練

太ももの前面にある大腿四頭筋の筋力が低下すると、膝関節が不安定となり痛みが増悪します。このため、筋力訓練をすることにより症状が緩和されます。

b. 体重のコントロール

日常生活では膝に体重の四〜七倍の負荷がかかるので、

肥満の方はそれだけ過剰な負担がかかることとなります。膝に痛みがあるために、肥満対策には食事制限が大切になります。

c. 装具

足の外側を高くし膝の内側の負担を軽くする足底板や、膝のサポーターを使用します。

d. 抗炎症剤

痛みや炎症を抑える薬を処方します。

e. 関節内注射

多くの場合は、関節液の構成成分の一つであるヒアルロン酸ナトリウムを関節内に注射します。一週間に一度注射することにより痛みが緩和されることとなります。

f. 関節鏡

関節内をカメラで観察し、悪くなった部分を取り除き、関節内をきれいに洗浄します。

g. 骨切り術

膝がO脚に変形してくると、膝の内側に負担がかかり痛みがでてくるため、骨を斜めに切り膝の変形を矯正します。

h. 人工関節置換術

最近では、機械の開発が進んでいるために術後の経過も良く痛みがほとんど無くなる患者さんが大勢います。

以上のような保存的治療がありますが、現在のところ変性した軟骨を元に戻す治療法はなく対症的な治療となっています。これらの治療により多くの症状は緩和されますが、頑固で強い痛みを持つ患者さんには手術を行うこともあります。

「膝が痛くて」とお悩みの方は、整形外科までお越し下さい。ご一緒に治療法を考えてみましょう。



金木町観光物産館名称

MADENY マディニー

入選者 伊丸岡さんに
表彰状伝達

金木町観光物産館の名称募集の入選者、伊丸岡千花子さんにこのほど、鳴海町長から表彰状と賞金が授与されました。

鳴海町長が「津軽弁を使った発想がすばらしい。『マディニー』は響きが良く、馴染みやすい名前」と感想を述べると、伊丸岡さんは「早く皆さんに親しんでもらえる名前になれば」と名付け親らしい心配をしていました。

戸籍の窓

五月届出分

おめでとう

小 前 今 原 米 鳴
林 田 今 田 谷 海
大起(猛) 健斗(俊夫) 綾香(俊順) 享平(直伸) 知恵(真一) 麗菜(泰介)

白川 未愉(春樹) 金木
おしあわせに

横山 聡(正男) 弘前市
佐藤 昭子(政一) 喜良市
藤田 英樹(勅博) 金木
村上陽子(利津男) 青森市
三上行彦(行紀) 五所川原市
津田 美幸(修治) 嘉瀬
秋元 久志(定夫) 嘉瀬
豊島幹世(喜代松) 秋田県
山中雅喜(喜代司) 嘉瀬
松橋 静(幸之助) 車力村
沢田 孝誠(勝衛) 嘉瀬
台丸谷優子(重光) 稲垣村

長谷川純也(喜代作) 木造町
秋元 文子(正雄) 川倉
伊藤 正俊(正一) 嘉瀬
木村薫(清秀) 五所川原市
三浦 満博(満男) 木造町
古川 恵(勝則) 喜良市
太田 志仁(石男) 金木
白戸 里美(敏夫) 車力村
山崎 健一(修) 金木
仙台谷景子(昭) 木造町
高橋潤一(駿一) 五所川原市
工藤由美子(武義) 金木

おくやみ

山中 たま(79才) 嘉瀬

横山 金四郎(89才) 喜良市
米塚 トミ(96才) 金木
中谷 萩(76才) 川倉
藤元 ユキ(87才) 金木
中谷 タヨ(93才) 川倉

この欄は金木町に住所を有している方々を掲載しています。掲載を希望しない方は町民課窓口へ届出の際申し出てください。

はじめまして

	
けん 斗 丈夫で元気な子に育ってほしい (母 こず恵より)	れい な 健康で素直な子に育ってほしい (父 泰介より)
	
だい き 早く大きくなってキャッチボールしよう! (父 猛より)	ち え うちの看板娘(次女)です (父 真一より)
	
きょう 平 男らしく思いやりあるやさしい子に (母 広美より)	み ゆ 元気でやさしい女の子になってほしい (両親より)

人口と世帯	5月末現在	前年同月比
男	5,820人	△ 36人
女	6,375人	△ 73人
計	12,195人	△ 109人
世帯数	3,944	2

伝言板

◎届いています
五月一日 芦野公園太宰橋付近 (茶色の手さげカバン)
五月二日 芦野公園滑り台付近 (ピンクのがまぐち)
五月二日 芦野公園内 (ふちなしのめがね)
五月二日 芦野公園電話ボックス内 (黒い財布)
五月八日 蒔田・金比羅宮付近 (おふだ)
心当たりの方は、金木警察署落し物係まで。
◎係から
このコーナーを利用した方は役場企画観光課まで。